

日々前進



学校HP: <http://www.kuwana-c.ed.jp/nisshin-e/>

学校教育目標：自分の夢や理想の実現に向かって、学び・考え・行動できる子どもを育てる

12月4日～12月10日は人権週間です

日進小学校では、各学年で様々な視点から人権を大切にする授業を行っています。今年度は9月に人権をテーマに授業参観・学年懇談会を行い、たくさんの保護者の皆様にご参加いただきました。

また11月20日の「にこにこ日進大作戦」では、みんなが楽しく安心して学校生活を送るために、いじめがない学級や学校にするために取り組んでいきたいことを話し合い、ポスターを作ったり全校集会で発表したりしました。

人権学習の様子や『にこにこ日進大作戦』の各学年の取組のほんの一部ですが紹介します。

1年 「ひとつぼし」

『ひとつぼし』というお話を読みました。とくいなこと、すきなこと、がんばっていること……。お話の中のソラくんの「ひとつぼし」は何かを考えることを通して、自分や友だち、みんなにそれぞれによいところがあることを学習しました。自分の「ひとつぼし」を見つける活動では、「けいさんがんばっている」「ともだちとなかよくあそんでいる」「はしるのがすき」「うたうこと」「げんきにあいさつをしている」などと書き、自分のステキなところやがんばっているところを見つけることができました。「みつけたら、いいきもちになったよ」と感想を発表していました。

自分や友だちのよいところを見つけて伝え合うことで、自分たちの持っているそれぞれのよさに気づくことができました。

2年 「くらべてみよう 日本とせかい」

世界の「はし」や「じゃんけん」、「あいさつ」などを通して、日本とのちがいに気付き、世界の文化に親しむために、子どもたちにとって身近な食文化やじゃんけん、言葉の違いを知ることによって、世界の国々に対する意識を育てることをねらいとした学習をしました。

世界のじゃんけんは、インドネシアとフランスのじゃんけんを体験しました。2年生同士だけでなく保護者の方ともじゃんけんをする機会もあり、大変盛り上がりました。

いろいろな国の文化について知っていく中で、「もっとほかの国の文化（服装、遊び、食べ物など）について知りたい」と振り返りに書いている子がたくさんいました。

3年 「世界の国と国旗の意味」

世界の国と国旗について学びました。世界には様々な国があり、それぞれの国には国旗があります。その国旗には、国が成立したきっかけ、風土など、歴史、自然、その国に住む人たちの思いなど、その国が大切にしてきたものが描かれています。子どもたちはそれぞれの国旗に込められた思いを知り、その国に暮らす

人々の思いを考えることができました。そこから相手の文化やその人たちを大切にすること、尊重することを学びました。子どもたちからは「他の国に興味を持つことができた」、「他の国旗も調べてみたい」「違う国の人の事も大切にしていきたい」など、海外の国々に興味を持つことができたり、外国の人ともかかわっていききたいという思いを持てたりできたようです。

4年 「みんなできるかな？ゲーム」

様々な国の言葉で書かれた指示カードの通りに行動する「みんなできるかな？」ゲームを行いました。ゲームの中で、言葉が分からずどうしたらよいか分からない状態を体験することで、日本へ来た外国人の気持ちを疑似体験することができました。子どもたちからは「わからなくて不安になった。」「悲しい気持ちになった。」という感想ができました。その後、日本で生活する外国の子どもの書いた作文を紹介しました。その中で、「言葉が分からなくて困っていたら助けてあげたい。」「外国の子とかにかかわらず、困っている子がいたら助ける。」という思いをもつ子どもがたくさんいました。

5年 「言葉の壁をのりこえよう」

外国から日本に来て暮らす人を支える仕事をされている人のお話を読んで、日本に住む外国の人たちが言葉や文化の違いなどに戸惑いながら、不安な気持ちで暮らしていることに、気づくことができました。

そこで外国から来た人たちが日本で安心して暮らすために、「やさしい日本語」について考えました。いくつかの場面を設定して、外国から来たばかりの友達に、どのように伝えたいことを伝えるかロールプレイをしながら考えました。ロールプレイとはいえ、短くわかりやすい日本語でゆっくり話すだけでなく、ジェスチャーや表情も入れて、一生懸命伝えようとする様子が見られました。外国の人たちに「やさしい日本語」は、結局のところ、すべての人に「やさしい日本語」であることに気づくことができた学習でした。

6年 「ケガレとキヨメ」

平安時代の「春日権現絵巻」という絵巻の一部からケガレのことを学びました。平安時代の人々は貴族が作りだした、科学的根拠のない「ケガレ」を信じ、日常と違うことになることを恐れており、家屋がケガレないように瀕死の人であっても家の外に出し、最期を迎えさせていたことを知りました。そのことを知った子どもたちからは、「ケガレを信じて瀕死状態の人を外に出すことはおかしい」や「助かるかもしれないのに、命を無駄にするなんてありえない」など、平安時代の人々がとっていた行動に対して「科学的根拠のないことに惑わされるのはおかしい」という感想がたくさん出されました。

★裏面もご覧ください。

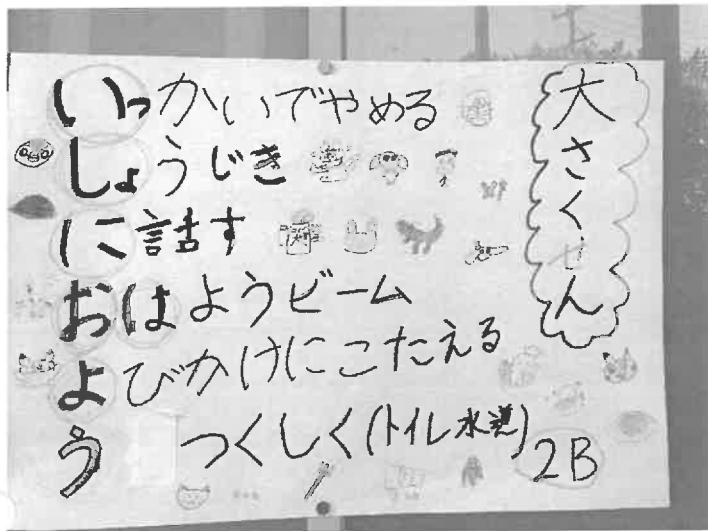
1A



2A



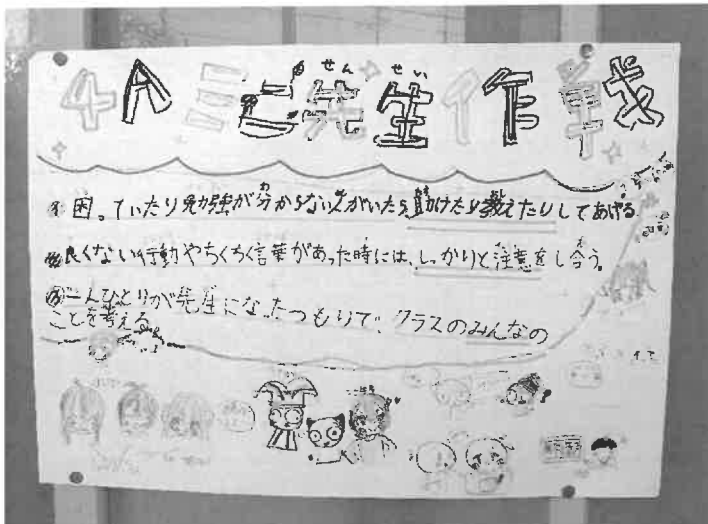
2B



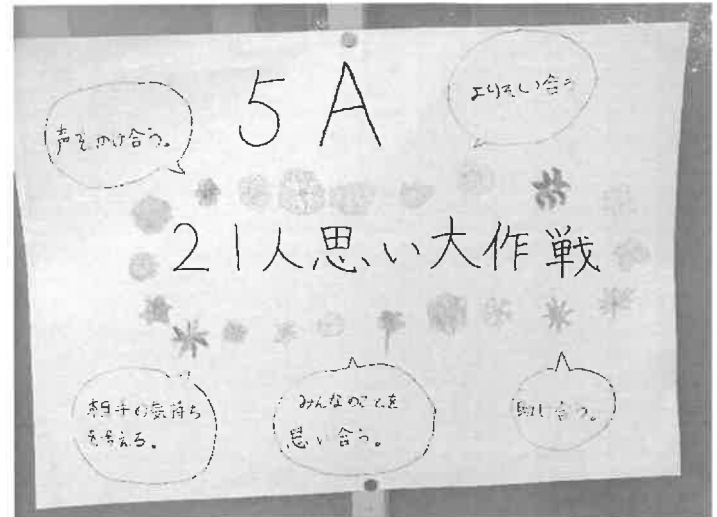
3A



4A

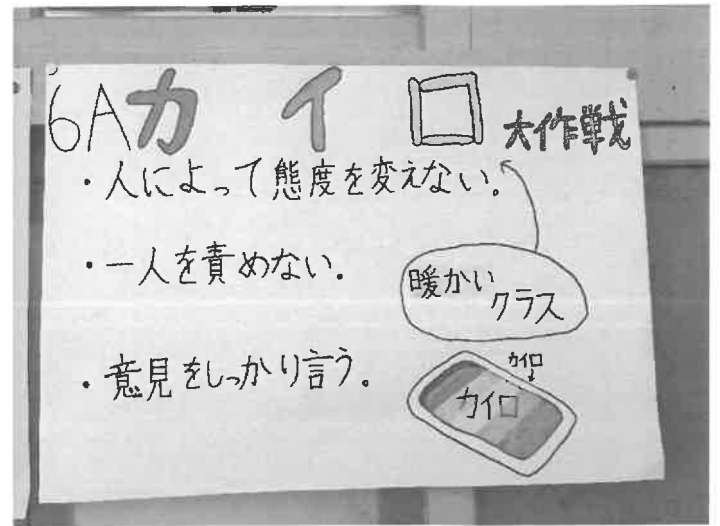


5A



5B

6A



全校集会の風景

